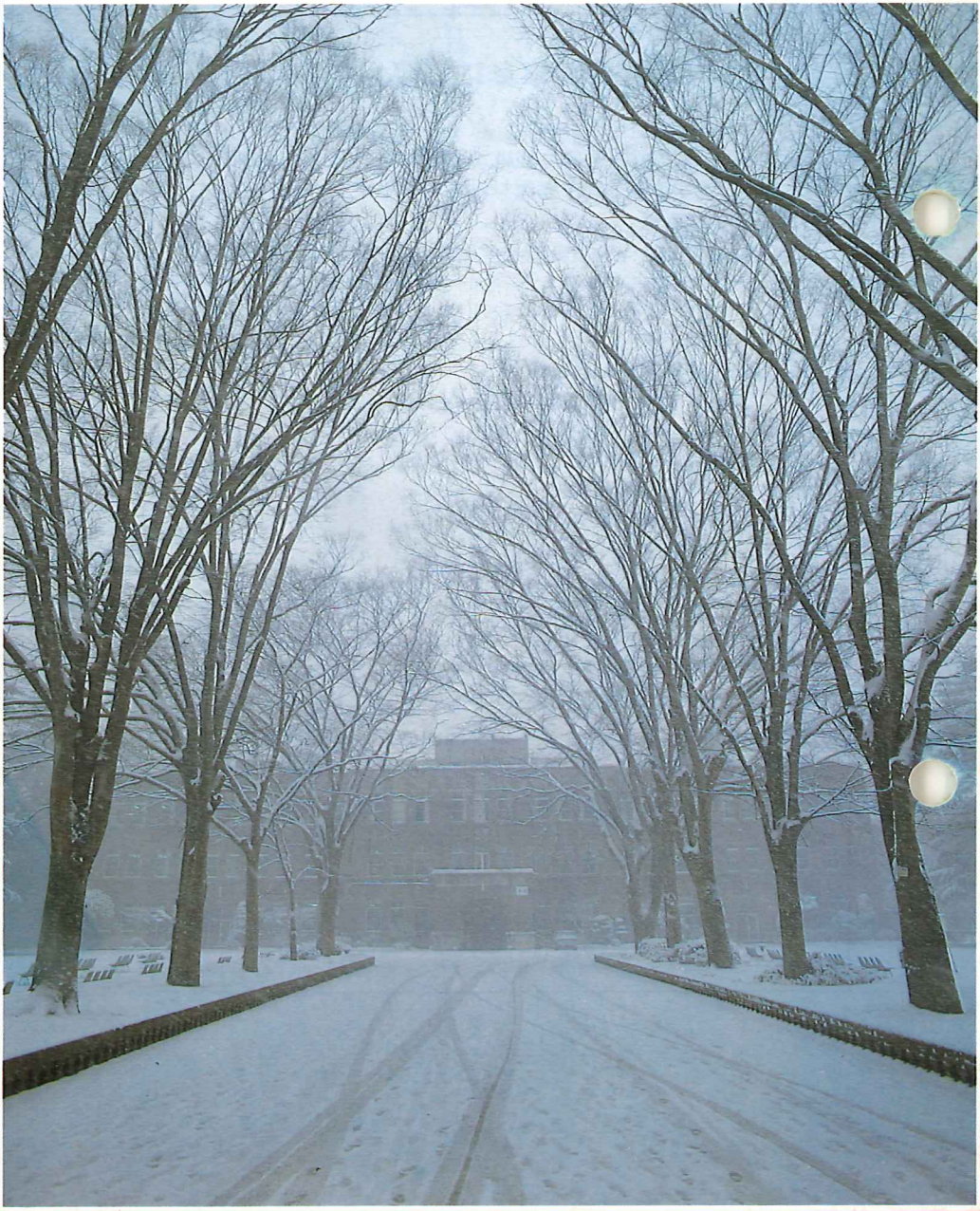
# 成蹊会誌 60

1984年12月



# 成蹊学園近況（成蹊学園総務課提供）

## ◇父母懇談会の開催

昭和五十九年度の成蹊大学父母懇談会を左記のとおり、地方の五カ所で開催しました。いずれの会場も多数の父母が参加され、盛況裏に終えることができました。

この父母懇談会には大学側から学長、学部長をはじめ教職員が出席して、大学全般の説明・就職関係の報告・各学部の現況説明等を行い、その後大学側と父母の間で成績、大学生活等について個別に懇談を行いました。

| 開催日 | 開催地 | 会場 |
|---|---|---|
| 六月二十三日（土） | 盛岡市 | 盛岡グランドホテル |
| 七月　七日（土） | 千葉市 | 千葉京成ホテル |
| 七月　十四日（土） | 松本市 | 松本第二東急イン |
| 九月　八日（土） | 高崎市 | 高崎ターミナルホテル |
| 九月　十六日（日） | 福島市 | ホテル辰巳屋 |
| 十一月　十日（土） | 武蔵野市 | 成蹊大学（工学部のみ） |

## ◇成蹊大学公開講座の開催

昨年度にひき続き、本年度も「私達の生活を考えるII」という統一テーマのもとに、十月六日から五回シリーズで、毎回土曜日の午後二時から四時まで次のとおり開催しました。

「明るく豊かな生活を支えるために—社会保障の制度—」　法学部教授　瀬　元　美知男

「声とことば—日常のことばを考える—」　文学部教授　山口欣次

「セラミックスの世界をのぞく—くらしを支える新素材—」　工学部教授　尾崎義治

「自然災害と都市生活—地震などの対策について—」　経済学部教授　山口真一

「都市の生活と土地問題—高地価との共存政策を考える—」　経済学部教授　田中一行

日常生活にかかわりのある今日的なテーマであったためか、受講者は大学生から八十九歳という高齢者まで幅広く、地域的には埼玉・千葉・神奈川と近県在住者にもひろがり、延五七〇名の方々が聴講されました。

## ◇米国大学生・大学院生夏期講座の開催と英文『心力歌』の発行

国際教育交換協議会（Council on International Educational Exchange）主催の米国大学生・大学院生の夏期講座が本学経済学部学会の協力で、六月十六日から七月二十七日までの六週間、本学において開催されました。国際教育交換協議会は、米国ニューヨーク市に本部を置き、教育における多角的な国際交流の一環として、各国において米国の大学生・大学院生のための夏期講座を開催している団体でありますが、今回参加した米国の大学は東部、中西部、南部、西部で有名な二十六大学で学生は総数三十五名でした。講師は国公私立大学、日本語学校、官庁、企業等から出講され、すべての授業は英語で行われました。

成蹊大学としては、今回の講座開催を機会に、成蹊教育を海外に紹介する意味もこめて、大正年間に学園から出版された英文の『心力歌』を復刻して参加学生に配付しましたが、一読した多数の学生が感銘をうけた旨、感想を述べておりました。

## ◇外国人留学生あれこれ

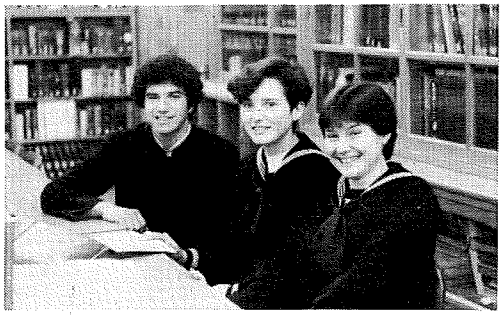
オーストラリアのカウラ高校との留学生交換が始まってから今年で十四年、またアメリカのセントポールズ校から、初めてスチーブ・ヴァスコフ君が二カ月余りの短期留学に訪れてから既に九年になります。この間、両校から成蹊に学んだ生徒数は合計二十二名と、可成りの数になりました。そして今では、少数ながら常に何人かの外国人留学生の姿が中・高キャンパスで見られるようになっています。

英語圏からの留学生を迎え入れる時には、こちらの英語の勉強にもなるのでは、という期待がなかったわけではありません。しかし最近は、カウラ、セントポールズ共、日本語を正課として教えており、来日する留学生は既に日本語の基礎を身につけ、それを一層磨くために来ているのです。折角日本に来たのだからできるだけ日本語で話そうという心掛けは、当然且つ立派なものであり、それをこちらの英語の練習台扱いするわけには行きません。しかし、留学生を囲んで英会話の練習をしたい、という積極性のある生徒の求めには喜んで応じてくれ、放課後定期的にサークル的な集まりを持ってお互いに楽しく勉強しています。しかし、進歩の度合いは、毎日日本語に包まれて暮す留学生の方が、日本の生徒の英語の上達ぶりよりも断然速く、半年も経った頃には会話には全く不自由を感じないまでになります。一昨年度留学したタラ・マクガウアン嬢は漢字にも大変興味を持ち、彼女の書いた日本語の作文には日本人生徒より多くの漢字が見られた程でした。彼女は、その他茶道、生け花、日本舞踊、尺八、剣道と、時間が許す限りいろいろな活動に従事し、見ている方で感心しましたが、この六月にはセントポールズを最高優等で卒業し、一つしか志願しないので先生たちをはらはらさせたプリンストン大学にすんなり入学しています。

そうは言っても、日本にいる一年の期間内に、日本語で行われる普通授業を何でもこなすようになるのは全く不可能なことです。そこで、英語、数学、理科、芸術、体育等はできるだけ普通授業に参加させますが、古典、漢文、歴史等の時間は、英語教員その他による個人指導によって日本語の熟達が助けられるように、特別プログラムを組んでいます。また、普通授業の理解を容易にするために、数学教員による教学の個人指導も行っています。

放課後の課外活動も、留学生にとって、日本の学校生活全体について学び、また友人を作るための重要な機会です。留学生に一番人気のあるのは剣道で、次が柔道でしょう。同じ日本古来の武道でも、柔道は外国でも道場等があって学べるようですが、剣道は珍しく、その珍しさが留学生にとって魅力のある点なのかもしれません。初段を取った者が三人おりますし、帰国する時には、あの重くて嵩張る防具を大事そうに担いで帰って行きました。練習するには相手の分も必要と、二組持って帰った男の子もおります。

カウラ、セントポールズの留学生の他に、ロータリー・クラブの交換学生もこれまで時折受け入れています。そして、この十月からは、初めてヨーロッパからの留学生として、オーストリアから来日したエヴァ・ロシーノ嬢を迎えています。母国語は勿論ドイツ語ですが、英語も流暢で、フランス語は更に得意だというのは、さすがヨーロッパならではの感がします。オーストリアでは、高校を卒業する頃には、外国語の一つや二つ自由に操れるようになっているのは当り前の事だそうです。お互いに国も近く、言語そのものも源流は同じということもありますが、日本の英語教育の現状と比べてみて、その差違の大きさが痛感されます。



現在，中・高に学ぶ留学生。左からクレイグ・シャーマン君（アメリカ），エヴァ・ロシーノさん（オーストリア），ケイト・ブラックモアさん（オーストラリア）



ラテン語もやったし、イタリア語も少し、と聞くと、「凄いなァ」と生徒も教員も、実は自分たちも中国古典などという凄い奴を一応やってはいるのだという事を忘れて、ただ感嘆するばかりです。おまけにアルプスで鍛えたスキーの腕は指導員級とか。来日する留学生の視野が広まることは勿論ですが、こうして感嘆している中にも我々自身の視野がそれだけ開け、また向上へのよい刺激を受けているのではないでしょうか。世界の各地から留学生を迎えることは、迎える側にも大きな意義のあることだと思います。

（中島　知・中学・高校総務主任）

## ◇小学校教育の重点目標の設定

昨五十八年度から、全校あげて取り組む教育実践の目標として、今までの八項目からなる「教育の力点」の中から、次の三つを設定しています。この三つにしぼるにあたっては、①成蹊小の子どもの生活意識と実態、②成蹊小学校創立の精神、③学校は子どもの生活の場であるという考え方に基盤をおいて行いました。

一、集団と個の関係を深く考える活動を重視する。
　個と集団の相互作用によって、個も集団もともに高まっていくことを自覚させ、平和と幸福を求める姿勢を育てる。

二、自主的に学習に取り組み、生活を高める意欲を育てる。
　毎日の生活を価値あるものとするために、自主的、実践的に生活をきりひらいていく態度と能力をつけさせるとともに、自己の内面性を高めていこうとする意欲を育てる。

三、意志と体を鍛え、たくましく実践する力を育てる。
　学校行事のそれぞれの目標にそって、何事に対してもねばり強くやりとげていく意志と体を鍛え、仲間としての連帯感を育てる。

形の上に直ぐに表われるようなものではなく、日々の教育実践の根底におくべき性質のものだと考えています。『たくましい実践力をもった人間』を大目標としています。

（木村定司・小学校長）

## ◇小学校新グラウンド竣工

待望の広い土のグラウンドが、十月十一日に竣工しました。ポプラグラウンドと中庭、そして旧校舎の跡地とを平面上に一体化し、二百メートルのトラックと八十メートルの直線コースがとれる広々としたものです。

旧校舎は、新校舎（本館、松林館）建設と共に撤去されたのですが、この旧校舎の懐かしさと思い出は、新しいグラウンドの上に幻のように彷彿として浮かんできます。この旧校舎で学ばれた卒業生の方にとっても感慨深いものがあるのではないでしょうか。撤去した旧校舎は、昭和二十三年建設の木造二階建て校舎（本館と呼んでいた）、二十七年建設の木造平屋建校舎（新館といっていた）、三十六年建設の軽鉄骨二階建（南新館）、それに上原のおばさんがいらした用務員室と便所、電気室等です。今は、影も形もなくなりましたが、この跡地全面が新しいグラウンドの一部となったわけです。

小学校の子どもたちのために、広い土の運動場が欲しいというのは、かねてからの私達の願いでした。やはり、土の運動場でないと、全力で疾走したり、たくましさを発揮して遊んだりすることにブレーキがかかるからです。これからは、安心して、全力を尽して遊ぶ子どもたちの光景が、度々見られることでしょう。

このグラウンドは、近隣の方々に、土ぼこりで迷惑をかけないように、散水については約十トンの貯水タンクを設け、ボタン一つ押すだけで作動できるように設備してあります。また、土の層を基礎から造ると共に、集水管のパイプを埋め込み、排水設備も完備しているすばらしいグラウンドです。

この新グラウンドの名称は、これまでの名を引き継ぎ、『ポプラグラウンド』としました。今後更に、この広いグラウンドの使用に慣れ、元気いっぱい躍動する成蹊っ子が期待できます。

（高柴光男・小学校教諭）
（木村定司・小学校長）

## 昭和60年度　学生・生徒・児童募集案内

| 学校・学部 | | 募集人員 | 願書受付期間 | 入学試験日 | 合格発表日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大学 | 経済学部 | 400名 | 1月14日(月)〜1月31日(木) | 2月21日(木) | 2月28日(木) |
| | 工学部 | 200名 | | 2月19日(火) | 2月25日(月) |
| | 文学部 | 390名 | | 2月20日(水) | 2月26日(火) |
| | 法学部 | 300名 | | 2月22日(金) | 3月1日(金) |
| | 海外帰国子女・第2期（経済学部のみ） | 1年次若干名 | 12月17日(月)〜12月24日(月)および1月8日(火)〜1月12日(土) | 1月17日(木) | 1月25日(金) |
| 高等学校 | | 約90名 | 1月26日(土)〜1月31日(木) | 2月18日(月) | 2月20日(水) |
| 中学校 | | 男子　約80名<br>女子　約30名 | 1月21日(月)〜1月24日(木) | 2月1日(金) | 2月3日(日) |

※高等学校海外帰国子女，2年編入，小学校3年編入および国際特別学級（小・中）の入試日程の細目については，当校学校事務室にお問い合わせください。
なお，小学校入試は11月7，8日に行われました。

### ◇学園諸施設の充実

今年七月から十月にかけて、つぎの諸施設が竣工いたしました。

一、工学部機械工作実習工場　鉄骨造一部二階建、三一九㎡
二、正門守衛所（改築）　鉄筋コンクリート造、平屋一一九㎡
三、小学校グラウンド　二〇〇mトラック、八〇m直線コース
四、高等学校部室　PCコンクリート造二階建、九二八㎡
五、学園倉庫（改築）　鉄骨二階建、一、〇三五㎡

工学部機械工作実習工場は、従来の工作実習室が手狭になったための新築です。

正門守衛所は、昭和三年から使用していた木造守衛所が老朽化し、また近年は種々の防犯、防災器具が設置され、スペースをとる必要から改築をしました。

小学校グラウンドは、旧ポプラグラウンドと中庭、旧木造校舎跡地を一体として、二〇〇メートルトラックと八〇メートルの直線コースを中心に、相撲場、砂場、鉄棒等を配置し、散水設備、共同トイレを設けました。

高等学校部室は、高校グラウンド北側に五十六年、五十八年、五十九年と三期に分けて、四十二部室を完成しました。

東倉庫と呼ばれる旧倉庫は、学生会館東側に木造トタン葺の平屋建のものがありましたが、老朽化が著しいため今般鉄骨総二階建リフト付の学園倉庫が竣工しました。これにより、学園内に点在する木造の倉庫は一部を除いて整理することができます。

なお、この機会に長年トラスコンの名前で親しまれてきた現大学小体育館と本館内大講堂を改修したことをご報告いたします。どちらも成蹊学園創設時から多数の方々に使用されてきましたが、長い年月を経て各所が傷んでまいりました。そこで、五十七年に小体育館を、五十八年に大講堂の大改修を施しました。



# 成蹊会報告

昭和59年5月1日
昭和59年10月31日

## 一、会　議

**○理　事　会**
第90回理事会（59年5月29日）
(1) 昭和58年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
(2) 成蹊会財産目録（昭和59年3月31日現在）承認の件
(3) 成蹊会特別会員（教職員）推薦の件
(4) 成蹊学園維持会委員（卒業生関係6名）推薦の件
(5) 成蹊会特別委員会委員選任の件

**○評議員会**
第31回評議員会（59年6月29日）
(1) 成蹊会監事選任の件

**○会員総会**
第29回会員総会（59年6月29日）
(1) 昭和58年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
(2) 財産目録（昭和59年3月31日現在）承認の件
(3) 昭和59年度事業計画及び収支予算案承認の件

**○特別委員会**
成蹊クラブ委員会（59年5月24日）　育英奨学委員会（59年6月21日）
財務委員会（59年5月25日）　学術・教育委員会（59年6月21日）
育英奨学委員会（59年5月28日）　財務委員会（59年10月31日）
学術・教育委員会（59年5月28日）

**○同　窓　会**
旧高委員会（59年5月22日）　実務学校同窓会（59年10月5日）
中学(旧制)同窓会（59年6月26日）　工学部幹事会（59年10月12日）
法学部幹事会（59年6月26日）　専門学校同窓会（59年10月17日）
高校委員会（59年7月3日）

**○支　部　会**
九州支部会（6月2日・熊本市）
千葉支部会（7月7日・千葉市）

## 二、人　事

監事・評議員・財務委員会委員長　田山正男死去（59年5月18日）
理事・評議員　後藤精一死去（59年9月5日）
財務委員会委員長選任　平塚保明（59年5月25日・財務委員会）
〃　委員選任　牧田祐治（59年5月29日・理事会）
監事選任　平塚保明（59年6月29日・評議員会）

## 三、催　事

**○第24回日本寮歌祭**
（59年10月6日・日比谷公会堂）

**○第26回謝恩顕彰会**
（59年10月19日・成蹊クラブ）

## 四、事　業

**○成蹊会誌第59号発行**（59年6月10日）

**○学術・教育研究助成金**（59年6月25日）
小学校助成金　九十万円
学術・教育研究助成金　七十万円

**○国際交流助成金**（59年7月25日）
二十万円

**○後援金**（十万円以上記載）
大学体育会（7月11日）　十万円
高校蹊祭（10月9日）　十万円

昭和59年12月1日
編集兼発行人　谷岡喜久蔵
発行所　社団法人 成蹊会
〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話　0422・51・2244